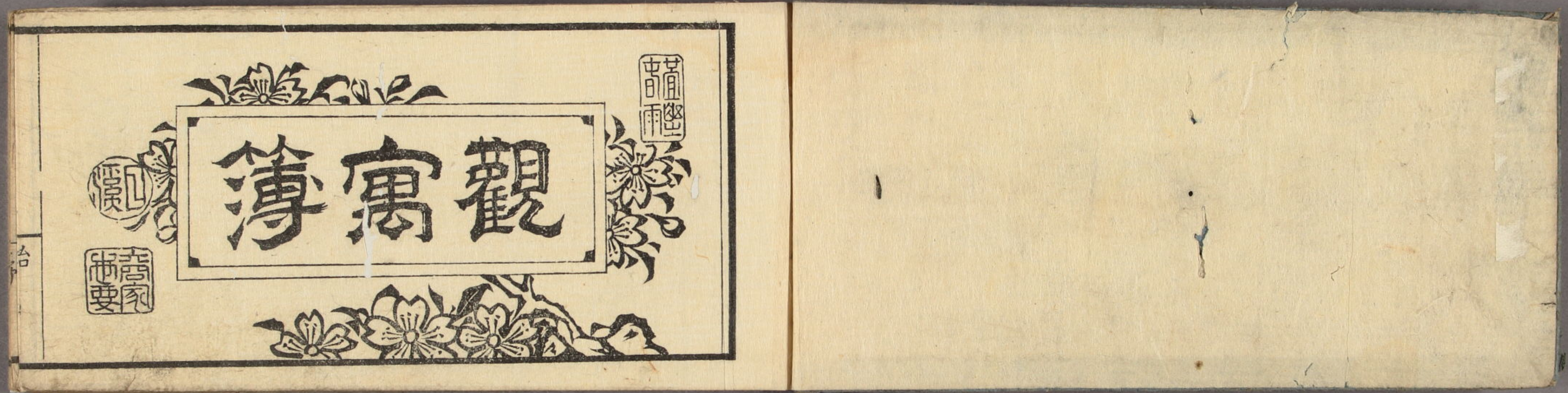
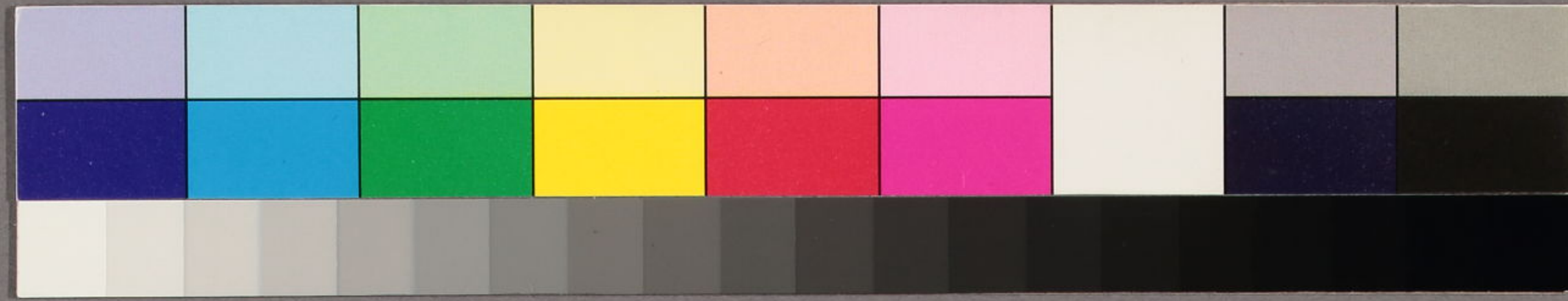


特別  
ル 3  
3617  
47





觀寓簿

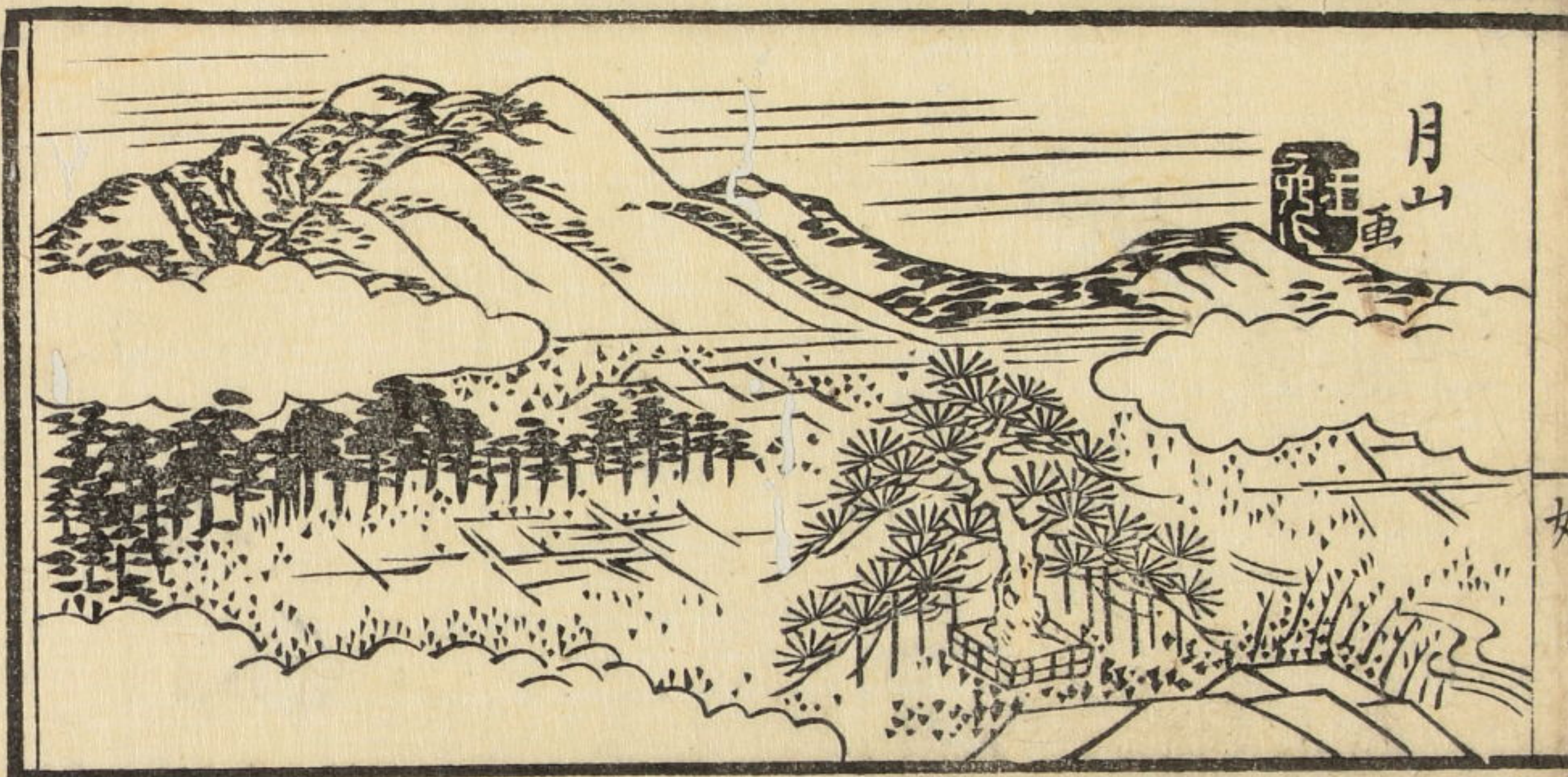
觀雨

山

要

台





月山  
車

縁まつるも木敷のなみ  
 志らむ桂葉さし文あは  
 中じつじふあふり  
 さふらふもあまのこ  
 うめめな枝たか  
 うひとほしとちみ  
 かさつきのひもあ  
 るはれはるあまのこ  
 あまのこあまのこ  
 うめめな枝たか  
 さつりつほろちり  
 静さながさるあみの水  
 かんとさるちりつほ

新古今集 輔親  
 あつて松をすけ日留里社いひけり  
 多々乃あつての如くかへり人へ  
 ○馬見岡神社 神領  
 歎向桜

### 後谷誌

新古今集 輔親  
 あつて松をすけ日留里社いひけり  
 多々乃あつての如くかへり人へ  
 ○馬見岡神社 神領  
 歎向桜

梁簡銘曰  
 大嵩社者  
 天穗日命神世之古跡也於  
 是 欽明天皇御宇六年觀  
 瑞己創祠於錦嶽其後  
 天武天皇白鳳甲申仰德更  
 作時於後谷而奠儀竟備矣  
 雖然業身早翔於春兩豎其  
 璠玄兔速過兮穠露凝其璫  
 清官既瘞矣故令後上棟幸  
 柱以全其佳躅因以祝奠明

謨明蠲四裔定為良弼協和  
八荒安焉四時序季疾病焉  
十兩順節穀梁登焉俯念神  
明睿聖尚垂皇恩其敬白

天慶八年乙巳八月二日

從四位行木三頭紀朝具貫之護誌

神主正六位上出雲宿禰貞生

工匠無位鞍部連楯足

大嵩廟梁簡銘木三頭紀大  
夫所撰且書承元災為灰燼  
今僅存其辭神主紀明仰  
恐其久而并其辭亡之欲刻  
而置之廟前求書千余因  
書以與之

寬政十一年己未夏五月

從四位行左近衛權將兼越中守  
白川城至源朝臣定信識

馬見岡大宮祠

欽明天皇六年蒲生稻置三麻  
呂創造祠于錦嶽之上白鳳十三  
年大錦下羽田兵國奏請造時  
于筱谷馬見岡延曆十五年有  
白雲之瑞更移時于置且柱即  
今地天慶八年木三頭紀貫之  
監造并撰梁簡銘

元四年

神主出雲貞吉  
与邑人等修造

明德元年征夷將軍源義滿命  
阿闍梨聖源修造

天文八年

蒲生下野守  
藤原定秀修造

元龜二年

蒲生左京大夫  
藤原賢秀修造

寬永八年

蒲生中教大輔  
藤原忠知修造

宝永五年

邑宰竹田源政為  
課邑人修造正殿

享和三年

邑人中井摘光武  
修造前殿等

文化二年四月

正三位按察使殿權大納言源重嗣書

庭田垂相記脩補神祠者之姓名  
可知世有帰信之人奉祀不断也  
而舞殿之殿猶有壞廢不復古  
邑人中井光武竊嫌于茲登願管  
之其子光昌武成等亦能繼之始  
得結構全備可謂勳也

文化乙亥

參議從臣行兼左衛門督藤原雅光撰書

池之りる所

智系

神やうるるるるるるるるるるるる

のりけるるるるるるるるるるるるる

るるるるるるるるるるるるるるるる

るるるるるるるるるるるるるるるる

江原

○日野町

石原宿  
一里余

旧名萱野又牧野

○産物 椀 黍 桑 稻 粟

○陵

押羽宿より吉羽村より  
旧名押羽村より

○音羽古城址

蒲生家

○中野古城址

日

昔は二務地又西去宿  
今も仁正寺といふ

此の川 橋あり

○惟喬親王御代

小島村より  
寺原樓の跡也

○蒲生雅俊御代

石原地

後吉羽山築城御代より以後  
以下十代孫刑部去補貞秀再

築城蒲生家代布より後津波城

江原

○石原宿

園本宿  
十二丁

舊名は石原郷又作田御

宿所 任屋町

○清物作村

古く清物作多田氏居す  
所不名付く竹屋よりのり

○岡本宿 上房村、  
江取 志り

宿 山形屋表宿

○梵寂寺 淨宗

小石川 大久良谷より  
物り候り

横山村

○野寺院 古のやまといふ

後の縁起畷を結文より  
より後といふ

○云の虫 羽田村 夜より

智恵寺といふところの虫のまら  
ゆれのやまら入おのり

女夫岩 女坂のやま

○上小房村 八日市場、  
一里廿四丁

休 おせん妻妻氣

八日市場

○育玉石塔寺

天竺の育玉の塔あり八日市中  
塔のうら白中三つをまじり  
毎年大障幕をけ換へり

○八日市場 八日川、  
二二丁

宿 壺屋文屋

○十禅師社 毎月六斎市  
二八日

通訪より 武佐名、二里半  
守山名、三丁半

○三河船文 八日市、  
十丁

○鯨江古城跡 勝村より  
八日市より二リ

鯨江又平部実貞の居城跡

○中戸村城

徳江相持が月後の居城跡

大勝村の城跡

○赤保吉郎第跡 赤村在

漢中村 善やと

南村

○富士橋

右の市より一リ

○乳橋

△也知川石

○日吉社 八日市より十丁

建初の惣社なり

○赤津山太郎坊大権現 日か

小松の又ヶ所惣社

赤津山寺かけ橋  
鶴形なる

○石崎山瓦屋寺 西後寺の  
石崎日十丁

麻見塚

○箕作山城跡

古川作本が夜持城

建初源八郎と云々

今寺と云々

○笠作山小松寺 あ文の  
城跡

△赤影乃

位田村 りる  
標なる

○和田山城

和田の赤守貞玉の城

小嶋村 寺出河

也知川 慈虎の虎

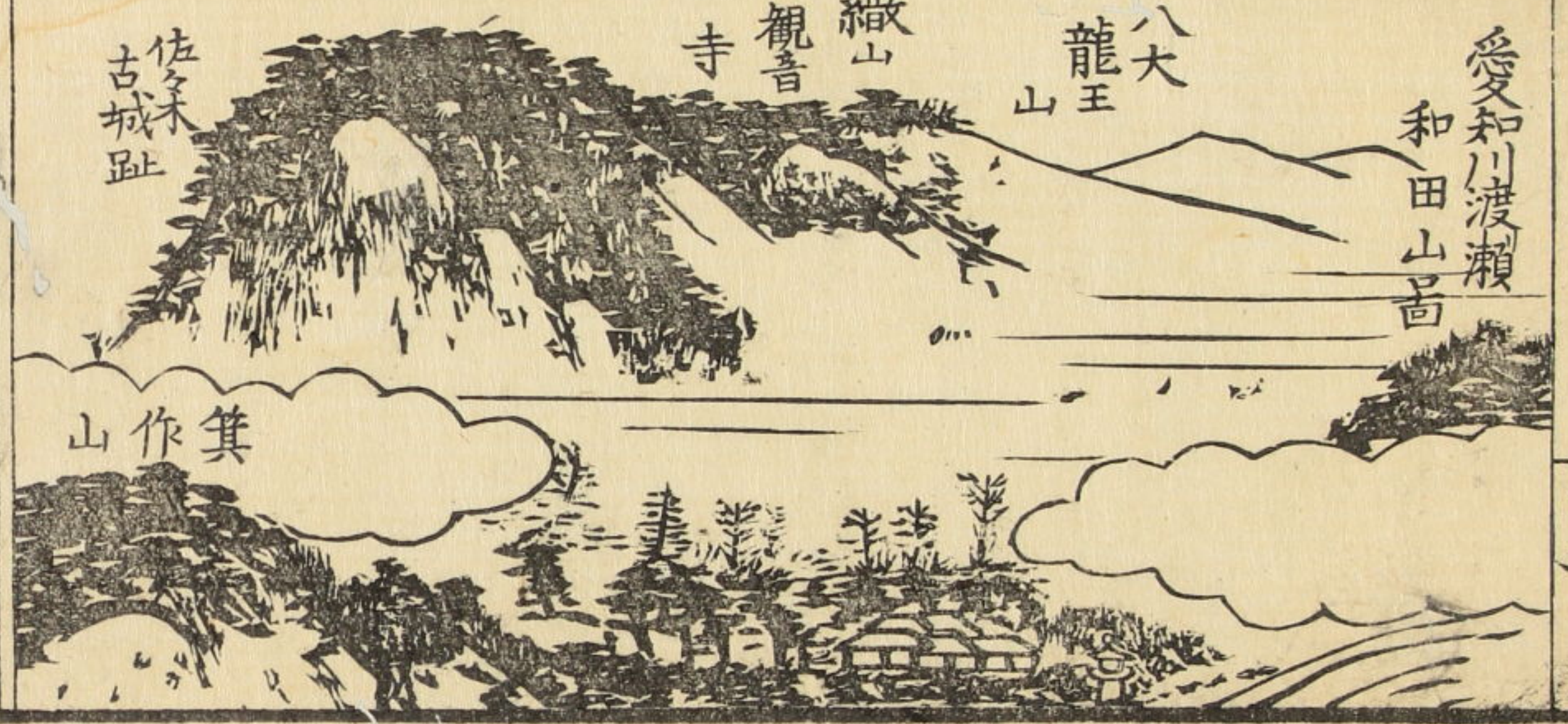


愛知川渡瀬  
和田山首

八大龍王  
山

織山  
寺 觀音

佐未  
古城趾



木曾道中定休泊所改

○ 守山宿 近江 武佐、三里半

泊所 笹屋高尾  
休所 竹屋長三郎

○ 檜観音 名産 湫 去々ト

守山川

古今 申之  
白鳥もまじりてくも守山  
とて茶乃くすまてり

聖洲川

新勅

後京極

たるらなる三よるせ月ちて  
いせわらぬ聖洲の川をみ

ヤの棟川

大町を流る  
被治あり

○篠原社

後述

存中のときや志のるや  
〜し〜あまのり受〜る白  
平宗聖墳 蛙ふ鳴池

△鏡宿

武修  
一り半

休所 过傳を興

出町とて。水白らあり

○牛久丸投宿家

たかた  
屋の極小帯とらる

○長者屋

後述  
川が東岸下り

△速湯より七八丁下り出町とて

立石

水口乃三  
日遊六

鏡山 畠



大伴  
黒主  
あまのり受  
〜し〜あまのり受〜る白  
〜し〜あまのり受〜る白

△横関川 西東

○十蓮坊塚 世利徑より  
去るに北丁

○新割山 北東に村あり  
東山麓にあり

○武佐寺 一名北光寺

平に衝きあがりるときは  
くらくらおろとせしむる  
女尾石 境内あり

○武佐宿 江ノ  
や新く  
北里半

泊  
休  
栲樹を忠意  
に門を結ぶ

名を墨  
八合升

△八幡町 りね六十丁

○老藏社 大に多賢  
東ののりひあせんがき  
あしそのりれまの一二  
たより方十六丁

○沙々貴大社 林外百石

蒲生野 紅粉物山

約井長者屋敷跡

鶴鶴城跡

○織山観音寺

△清水鼻村

休 角石源流

○愛知川

名を

後れ物

あら川や岩を千浪の瀬とて  
くちのこのちまのちや

○旭里眺

痛き紀

日郷

あしきや人のあせり  
こころのちまのちや

江良  
○愛知川宿 二里八丁

泊 花屋治右衛門  
口 竹子屋守兵衛  
休 菊屋幸右衛門  
休泊 雲屋市藏

名産 煎茶 一溪

荒神山

○兜率山准会寺 甲斐村

紫石 石像

△石島村

休 梅屋源六

常盤橋 葛巻所

山雲村

山崎源右衛門 高野寺古塔改

○大上川 多良川もよ

うす種永保寺 寺継親右衛門

江良  
○高宮宿 一里半

泊 玉屋清御  
休 玉屋熱次  
休 木屋仁右衛門

名産 布

○日息三行身猪義 并墓

△大智丹 多良川 三十一丁 常我寺

○多賀大社 神代 三百八十石

△表石

夫木 絶倫

山崎源右衛門 高野寺古塔改  
やへのき丹 不まきいゆる外

○ふくね系 大森が長  
続古  
くつろそちのね系ちろりちま  
つねに十ろり系ハ乃代

△大塚村

休 角屋宗八

多和 ちの繪家

△ 多賀石  
土倉根石

○岩清水大明神

古塚 不知哉川

古今

いぬさのやら乃山なるいぬや川

いぬさのやら乃山なるいぬや川  
平時光

いぬや川いぬさのやら乃山なるいぬや川  
よまのいぬさのやら乃山なるいぬや川

○鳥籠山 俗に鳩尻山  
後み

鳴志ろふんろふんろふんろふんろふん山  
いぬさのやら乃山なるいぬや川

○小町塚

けり小塚あつ平  
その空塚とあつ平  
あつ平の小塚村とつる地名  
よまに後人の伝とあつ平

○漢山古墳蹟 土倉根石あり

江見

○鳥居本宿 鳥居

休 結屋繁吉  
休 漢山古墳

合羽仕立所 夜田や結屋  
結教丸 有川市結屋

○大倉橋

△北國乃追分 多賀石あり  
三十一丁

△ 床原 ヨリ 二五丁

泊 後屋半七

○右尾山 尾原あり

山名は後守後を浦要長の地

西丹波守家院 茶末畑

△儀崇村 儀崇社

○丸尾の祠

五月廿四日分 儀崇の祠

資材の

卯月より儀崇の祠まつり

後ねね

ついでに儀崇の祠まつり

あつたから儀崇の祠まつり

のりた人の儀崇の祠まつり

丸尾の祠

五女郎

ついでに儀崇の祠まつり

あつたから儀崇の祠まつり

のりた人の儀崇の祠まつり

家長

あつたから儀崇の祠まつり

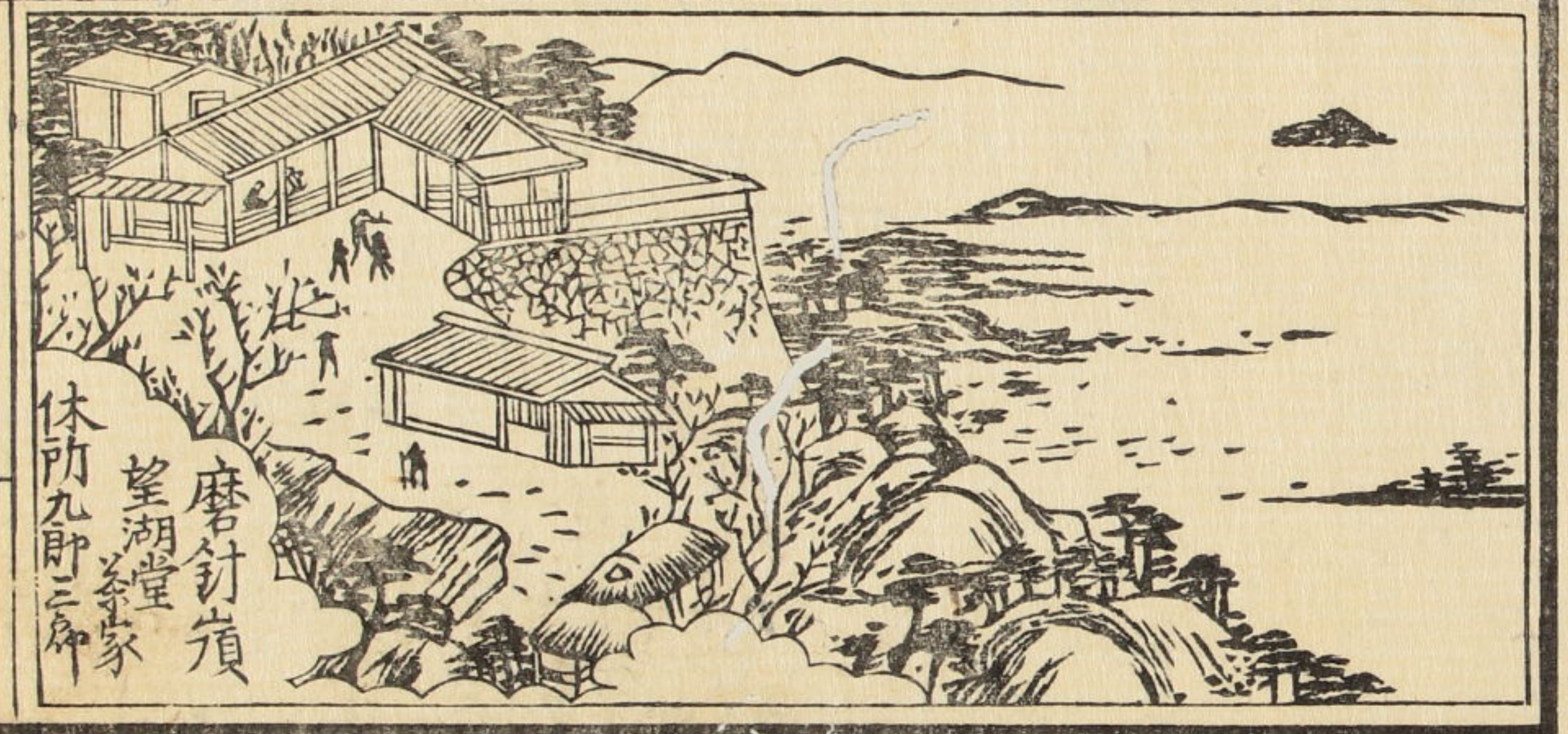
のりた人の儀崇の祠まつり

あつたから儀崇の祠まつり

のりた人の儀崇の祠まつり

△長浜河。竹生寺の仲

泊 大津屋島



磨針痕

望湖堂

休所九郎三郎

江  
○番場宿 解并、きり

泊 酒屋重藏  
休 玉屋武吉

城主 貫土肥 節 徳 実 遠

○地頭山 弾正墳

江 此小谷城之跡并其の  
墓下并に彈正忠義公之墓  
山代地并其の生家也

○六ヶ所山

出堂

○八葉山 三葉寺 時宗

元弘三年六月九日 奉命一  
向寺ありしを北東連發乃以  
住持寺ありし三人入道きりて  
自ら寺を建てて焼く  
北条時義の御時 權谷三葉家秋  
北条時義の御時 子貞の御時  
日 三時寺あり 永吉の御  
宮格ありしあり 日 又四郎

日 六所 三葉寺御時

日 三葉寺あり 日 永吉の御

日 占市 日 三葉寺あり

執事 権谷  
是寺を建てしを合宿寺なりとの  
義あり

△門根村 並にあり

江  
○醒弁宿 柏並 一里半

泊 休 酒屋重藏  
控宿 酒屋重藏  
休 酒屋重藏

名和 醒弁餅

○西の水 ○十五水

○日本武吉 居後清水

古事記云

草那藝 斂置 其美夜受 此

賣之許而取伊服岐触之神  
 幸行於是詔茲山神者徒手  
 直取而騰其山之時白猪逢于  
 山邊其天如平爾為言攀而詔  
 是化白猪者其神之使者也今  
 不殺還時將雜而騰豎於足  
 零大冰而打惑倭建命此  
 猪者非其神之使者當其神  
 之正身因言攀見惑也故還  
 下坐之到玉倉部之清泉以息  
 坐之時御心稍寤故号其清  
 泉謂居寤清泉也  
 ○腰掛石ウヅカシ○登石ノボリ○磐石イハ  
 ○地藏堂ジヤウジヤウ○茶石チヤウシ

為相  
 川カハなりすまを清スミ出デるる  
 あまのつとむらり井イのあり  
西行  
 水ミヅは清スミなるのミありあり  
 うまのウマのウマのウマのウマ  
 ○梓山シラカシ○松冥マツミ 好ヨク也  
 あまの山ヤマのヤマのヤマのヤマ  
 こころココロのココロのココロのココロ  
 心ココロのココロのココロのココロ

江及  
 ○拍原宿ウチハラ 今イマ頃キョウなり  
 泊トモ 跡アトを平ヘイ原ハラ  
 ヤ 場バを立タテ寄ヨシ所所  
 名ナ産サン 名ナ産サン  
 伊イ賀カ又マタ結ムス糸イ  
 月ツキ 日ヒ



○古神宮社

○寂照山成普陀院 天台宗

四葉寺といふ  
寺に百六十石余

大寺中

明星山壽明院

茶師堂

○日輪殿墳

柏原の  
山間あり

右平化に日輪殿の細々  
宮殿といふあり又浮屠者  
所居全附録に日輪中  
細々塚といふ又浮屠  
古平紀と引く杜白南  
中細々塚源氏家の墳  
といふ傳に後世に  
西と傳す程後日再考  
と加す

結言今

る所あり

あつて此のめいりうありなる

しつきのありきりりりり

衣の三肉大目

つきののけのなかりりりり

○長尾鎌倉塚

柏原より二里半の松尾にあり

○和射又舟

長久寺の舟なる田舎の地と  
いふ地を和射の浜といふ

夫木

公実

あつてそのありきりりりりりり

日

兼三良公

あつてそのありきりりりりりり

○寝物

そのありきりりりりりり  
と云ふ寺村といふ

○車返り坂

柏原の坂云

昔より月夜そのありきりりりりりり  
と云ふ寺村といふ

○丈藪

後川記  
右の山をさきわたりてあまの  
ふらり乃山をたけく人す

美濃

関ヶ原

○今須宿

まじり

泊

道場

休治も大黒屋をゆ

今須宿の居屋と云く在り  
居屋地下より変ありかへ  
岸にわたりしむ向と云

○子向井

後川記

美良

まの山を井やまけい  
のみちのあまのりあす

○青坂山妙慈寺

曹洞宗  
ちんたふ

むつを渡嶽と云く  
系よとて建す

○青坂洞 長江氏墓

△山中村 建地

ヤ

○常盤墓

山中村長江氏家

石塔二首並ありも  
一説小書盤の守墓と云

○又鳥居

山中村

家

くあつあつい  
こまをわたりしむ

大谷村の神倉跡

山中村の  
系よとて建す

○美血川

富士記

孝

くわたりてこまにたれをそまら川  
くろきすらからたきめいりり

松尾山

不破河内守光治若 若八郎 西條五城

永祿三年中陰長公の令下すうて  
少井六角末のふりてけきこ  
はなごまのりて後長五郎の御座ら  
全中河内を治つて又く小幡と  
かま

○名血橋 ねむ村

兼良公

白雲といまうれ岩橋かまも  
くろ血のそくれ名をかくるは

○関谷川

統孝

関谷五郎

夏かつてさるん月もなや  
つはとくしつる関のくわ川  
統孝

たのめく関のくわ川をきても  
あきかたふまをせしつ

谷川記

善良公

くつれとやいふ年をさるん  
かたを後あつる川のか

○穴作の宮

関比呂明林 天武帝とあ

○不破右関

松尾村の内小名をさるん  
碑ありて銘文をかく

不破故関銘并序

天武帝自春宮遷吉野之  
明年将入東国野難矣師  
塞不破道過辺江之衆駕入  
美濃諸軍稍至乃命將軍  
村國連男依等自不破道出  
与辺江師戰瀬田克之男依  
等獻捷不破行宮又明年  
二月 帝即位飛鳥清見有

宮於是 詔置不破關後  
世遂併勢之鈴鹿越之愛  
發稱曰三關國家每有  
大喪及迎登必固三關至延  
曆八年以區宇之無外詔廢  
三關其後一脩一廢及室町氏  
之季雖類尚存昔人詠故關  
秋風以此也按地圖關址在今  
大關村西自江之磨藏嶺連  
山簇擁至關孫川川上蓋其  
墟而關原正在其東夫關原  
者我烈祖大君之所摧奸巨  
三成之師以定大業之地也  
嗚呼 王霸鴻業千歲相望  
武成之慶俱在斯地其惟休  
哉家君嘗還自津島經此登  
覽慨然久之有民名昌周世居  
其墟與父老曾謀乞銘不果今則

其請及余也辭曰不破郡維  
西嶺坑在骨士申 帝出南  
山一九以封捷伐惟張張凱  
獻馘 皇極攸正乃茲茲關  
爰護字京闕世綿邈弗脩弗  
肩降慶長初豐閣即世奸臣  
煽亂馮特餘烈誘被侯伯  
陽傳大義惟時候伯有明  
有味或去或骨從寔繁其  
徒如林一十二萬負險阻澗  
失斯濕原天厭亂略祀其畔  
援 大旆一動妖氛霧釋小  
者承家大者開國彼昧不明  
喪亡黜削註誤服從慨慷以  
激雲沛之澤順我 帝則鑄  
銘貞珉置茲古墟百辟卿士  
以來以徂千萬斯載曷視斯詞

文政五年歲次壬午春二月

林 訖 撰 文

関研書

市川三多顯額

右

新嘉 抄政去收大后  
人千まあふそのまゝのいひさし

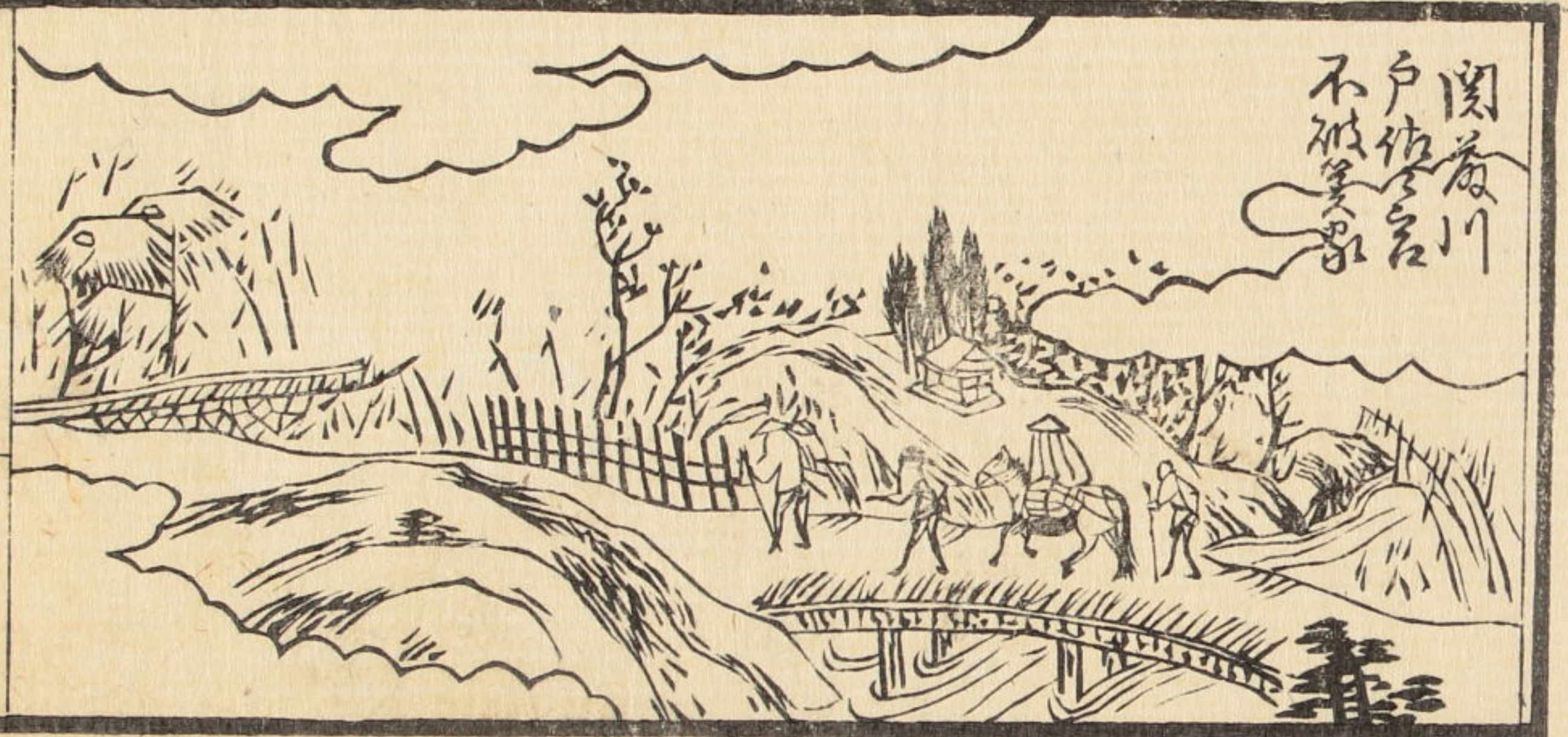
あまののりたは 任乃 信実  
新嘉 信実

林のせりあとのまゝなるあまの  
よのあまて目そりり

とせと

林のせりあとのまゝなるあまの  
よのあまて目そりり

関 古丹あり



関 古丹あり  
戸 徳 名  
不 破 美 歌

天武帝山腰御石 つらね  
日 山腰御石 つらね

○ おらりそよそとよもた美と原  
のき

○ は新より北山御石十三丁  
して山腰とてあありこれも日  
明く山腰とてあありこれも日  
けあありとらつり

○ つらねの中 月 ね尾村南田を  
の中核のああり

○ 春日御石 月 中山の御石  
とあありとらつり

○ 月 月 雅あり月とてああり  
詩歌とてああり

伊波山南方古寺御石家  
ね尾村より後由宣

美乃

○ 関ヶ原宿 一里半

泊 関ヶ原宿

○ 美乃 八幡宮 ○ 首塚 西ノ谷

○ 美乃 八幡宮 ○ 首塚 西ノ谷

○ 美乃 八幡宮 ○ 首塚 西ノ谷

○ 美乃 八幡宮 ○ 首塚 西ノ谷

○ 美乃 八幡宮 ○ 首塚 西ノ谷

○ 美乃 八幡宮 ○ 首塚 西ノ谷

○ 美乃 八幡宮 ○ 首塚 西ノ谷

○ 美乃 八幡宮 ○ 首塚 西ノ谷

○ 美乃 八幡宮 ○ 首塚 西ノ谷

○ 美乃 八幡宮 ○ 首塚 西ノ谷

山を傳へ居る

○浮島神社

仲乃百々

ト船島邦

昔々ある山に神あり

こゝもなつかしき山あり

竹中守常尉重治城跡

徳島山奥 吉高村

○鷄籠山 千手松

淵女四跡 玉の井

○観音堂

五輪あり一室切又公あり

新物 馬 秀

昔々けきやうとてのり

ちりちり物とそれ

六百番母合 定 家

ひらひらとてのり

むすひすてつるあり

△野上里

休 吉田倉と泉

○栗原山。菊文社あり

美乃

○垂井宿 赤坂 一リ十三丁

泊休 亀屋為八

○玉泉寺 徳宗

意井清水

馬相

天木 川の神のまつり

○南宮一寺居

美濃中山

統古

昔々ある中山あり

まじりてある

○不破神社

意井より南

今も山あり

○民安庵寺 老木堂あり

たよあやうとまうあけたりん  
~~~~~  
~~~~~

○今蓮寺 寺住三平

社儀ゆゑんを舟名も二四  
竹林の申 春丸の碑あり  
鎌倉 春王丸

よんごひの寺あやうとま  
まやうらうのまあつ  
日 安王丸

相川や橋をいそいでゆ  
いそいのまあつきえや果かん

○日月上人茶屋塚 四平

赤松元年辛酉五月廿日叙

○相川 孝若

○喜山 山

○青野 為甲

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~



清洲分 一リ半  
名古屋分 一リ半  
熱田と

○金銀山 吉野村より入  
正分寺あり

○吉野墓室

松玉

善法

ひらね 徳く人の名をひらねと云ふ

あつらふやうなるあつらふの里

小篠竹塚 より舟より

朝長墓 系形寺と云ふ  
菴あり

△甘芳竹

休所

照子清水 古里あり今も  
枯木と云ふ

古若屋敷 徳 万石

○赤勝山 旧名関山

甲塚 吾飯村あり

美濃

○赤坂宿 山形寺、  
二リ八丁

泊 雲屋忠徳

橋 大井忠平

△谷汲石 スリ

永享宿士記り 石を舟にせ

ゆりまわらふ人あつらふの里

さつりやまゝのり

○子安洞 八幡あり

○金生山宝光院 古伝  
十石

屏風岩 百石

寝覚屋 赤坂北八幡村  
葛屋と云ふ

夫木 伊勢大崩

風の吹く松をわらへてを睡ら

松さめりの里より長くく

枕瀬川 赤坂村

美濃

〇 美濃郡 美濃川

〇 美濃郡 美濃川

〇 美濃郡 美濃川

△ 〇 〇 〇

休

〇 〇 〇

〇 〇 〇

〇 〇 〇

△ 〇 〇

美濃

〇 美江寺宿 一里六丁

泊 松尾守右衛門

休泊 丸尾宅右衛門

休控 月見谷徳義

△ 〇 〇

〇 〇 〇

〇 〇 〇

〇 〇 〇

〇 〇 〇

〇 〇 〇

〇 〇 〇

〇 〇 〇

〇 〇 〇

美濃

〇 河渡宿 加納、一里半

泊 七ツ谷長兵衛

泊 持屋常八

名物 長良鮎

長良川 昔は長良川に  
鮎を釣る人あり

俗に長良川に  
鮎を釣る人あり

○乙津寺 後高市陽より  
北に五斗入

△改年乃つてき 三十丁

○後嶋大脚堂 古伝  
西に八石五斗

かきまへ海あり  
ふかふかの寺

△守左村 俗に  
守左村

名物わらわら餅  
又けし村織あり

△改阜石

口こたあり  
きふらうや三里

山田小野

家陸

続後抄

山田小野の地乃てきまへ

うらわらき餅

○美濃 加納宿 物産 四十八丁

泊 茶を長良川

月 西向寺あり

休 雲飯義長

城

古の假名家まへ

○大井社

社名松

社名

武美伝

あつたる誰からのおひら

うきそ田のなとくちん

○今華山 山石 綿糸山

△波年尾 ときり系

△热田系

○瑞光寺山

△新が網村

ヤブ 梅村尾羽湯

○山寺神社

○村園 神社

各勢野 二里宮

△六軒系尾立地

△二十軒系尾立

○伊木山 鴨江渡

川田渡

△犬山系あり

大沢治系尾立地山

美濃

○鵜沼宿 七回り

旧宇留間 曹問市も

泊 野白首湯

休 山姥尾尾

お物所 丸一尾尾

後松

源まへ

あつすらのこころをこころ

△大山道

大山峠より尾尾七里

○汁屋神社

○惟子山

木床

佑後

しるしをつけながらのこころ

○岩屋三郎寺と聖子 信長

觀音 坂 望 勝 山人 畠



木曾川  
下流

○觀音坂  
足尾川一の川系  
地乃即難跡之坂下小川也

△猪山村 立場

休 小崎左忠三郎

△五組村

泊 長三郎

△大石 左 岡堀田氏

△酒倉村

川あり

○美保 大田宿 二リ

泊 磯谷辰太郎  
ヤ下 橋 小松屋系仰

○縣立神社

名産 障子柳 名々一ふ  
月 又濃紙 又武蔵

△飛騨石 名の入口

○右田川 水の名あり 舟あり

後舟佛より一里とどろ谷と  
又本宮川 飛騨川とわら

△今渡村

休 井内谷久保

○兼山古城

△玉田通名古屋

伏見より 二里

土田より 二里五分

けりこ小坂あり

長江野より 大の二里  
新田一里半

犬山より 二里

岩倉より いながり  
三里

家田より 一里半

小牧より 三里

名古屋より いごま  
三里

志水より しづみ  
三里

琵琶湖 橋あり

宿 中河庄丁目

津島より 廿六丁

佐屋 宿 堀子 八

熱田 官の者より

可兒山あり

美濃  
○伏見宿 赤坂、一り

泊 松原市右衛門  
節 藤原  
栗原屋前

△裨村

△新戸村

関吉郎とら若の首塚

△中村

○可兒大寺山歿興寺

賢系仰也

○區王山

尾ヶ池 西園方にあり

美濃

○御嶽宿 細小字、三り

泊 御嶽山

備 御嶽山

日 御嶽山又作

○虎溪山永保寺 若の西の方

○泳宮 皇の天台宮年

行幸しるふ

夫木

光教

九乃あつくりの池のすむとぎ  
こひとまら乃一とふかれ

△久々利名

△井尻村 さいと堀

△塩坂村

△十本木 建徳

体 坂本屋徳也

鬼窟 けいこく けいこくあり

○一天清水 いつてんしみず 碑あり

△併木坂

△津栲村

△友あけ 立坊

休

△平岩村 平岩 大敷あり

○月吉里 つきよし 土岐郡あり

○日吉里 ひよし 二月の白土あり

△家 いえ 西行

よるひのさういふあり

月より白く里とて

美濃 ○細火平痛 一リ三丁

細作 毛尾津左衛門

命 松尾重吉

△里原 さとはら 山あり 三里あり

△一口家 立坊

ヤブ 大坂在伊勢

○深谷坂 ふかや

母原 本常山あり

山あり 白山あり

山あり 山あり

○鳥帽子 とりぼうし 山あり

美濃 ○大湫宿 おほいせ 大井あり

山あり 山あり

山あり 山あり

山あり 山あり

△岩村あり



○十三嶺

△深谷村

休 加納屋三右衛門

○丸橋

△名古屋及 孫伊勢乃

牛のふもと多し  
とて下敷石とて又  
乃能の下をくまふ

△根之根村 三坊

マ下 東園屋か子席

△七本松 毫山古坊

○西の塚 日取池

中野村

○竹尾屋 中野村あり

東中 中野村

○花野山

山家

西り

あつてつたのなうん本町ふ  
ゆるうけそてわまのすこる

△岩村乃

△川 あり

西り

後のすくく岩のまふ内を  
大井のまふまふまふまふ

中島出河

美濃

○大井宿

中津川、  
二り半六丁

泊 入常屋屋五九席

休 孫屋勘定

△石橋村

○根津平塚

△茄子川村

ヤ下 時分屋旁助

△坂本村

建場古八宮

○八幡宮 小石塚

△千具林村

△駒場村

飛騨石

○苗木城

本曾川 下流 わき ぬき

美濃 ○中津川宿 一里廿丁

泊 田丸屋 五三氣  
ヤ下 福崎屋 忠八

○中川神社

○恵那山神社

△与坂

白木所番所

△枝坂

○光明行者一命名

此を証するもの

落合長助善行城徳

横長山嶽あり 本宮を義仲公  
の忌部トナリ

○兼行善社

麻物坂の里より落合長助と  
九二十里より徳城より  
理法理巴作より山路より徳  
後の兼行善社栗田光典の  
考より定むるなり記かり  
昔の善行郡より古なり

美濃  
△谷ヶ搦 △湯舟沢  
△無ヶ洞  
○葉竹堂  
△十四嶺  
△新系屋 たの坊  
△津ヶ平

美濃  
○以洛合宿 一里又丁

泊 井口又右門  
ヤヤ 船屋又吉備

△谷ヶ搦 △湯舟沢

△無ヶ洞

○葉竹堂

△十四嶺

美濃 國境

楓ヶやぐ

△新系屋 たの坊

△津ヶ平

新町

原民知

あつてもあつてもきつてもあつても

△葉ヶ原 △伏在里

○葉竹堂

○葉竹堂 兼好菴

鎌倉御所

作原

○馬籠宿 二里

泊 鳩崎吉左馬  
城 松屋武右馬

泉勝殿 下坂川

○丸山城跡

○破蔵跡 二十里林

△一卜、津 立場

新勅 寂蓮法師

本城ふるきそし麻衣神のまき  
みつらゝ家もまらりりり

○妻糸新宿

新後在り

坂河

よりもかや本常路のそし事まを  
まらりや月のまらりわらりん

△一石折 立場

ヤ下 廟屋利高

白本御番所

小橋あり

○石折坂

○女浴 ○男浴

橋あり

△大妻糸新橋場

若老と末御 糸糸新橋場

大寺村 ともやん

わらりりり川

△清川橋上七 伊勢守とよみ  
明路のまらりりり

○狸岩

信濃

○妻籠宿 三留せく  
一り半

泊 大世屋孫右馬

撰者 加納屋清右馬

ヤ下 綿屋源藏

○本常義昌出城跡

天正十年築城之

守り山村良務

川

○揚霧山 揚霧山

○風越山 風越山

△合後村 川あり

作戸

○本曾義仲云境親多事

島嶋子安かど衆

△和合村 川あり

新橋 保れ具

まもなやわいこちらるかけくの  
とらうふさるんきまのふらう

○岩戸親吉

信法 二富野 野郎 信法 相沢 泉山あり

○二富野宿 野尻 二り半

休泊 辺江源流

控者 新橋 相沢 泉山あり

牧澤橋

紅城 坂あり

与川戸橋

羅天坂 橋

△清水村

○伊勢山

○奈岐嶺 嶺 中本あり

△中河原 建坊

休 櫻井 橋あり

△谷川

△十一良村 建坊

中河原 新橋 泉山あり

○白部坂 芝山

下在家

信濃

○野尻宿 一丁三丁 須永

泊 二文字屋敷

ヤブ 吉田屋佐平次

○飯盛山

野尻屋右衛門家墓家

小山五郎孫人 今八坂  
本戸左左馬助春 本除

○中河弁天社 川向

この村 川向

△長野 平次

ヤブ 中河屋佐平次

○今井兼平古塚跡 本宿村

○本曾殿被

弓矢八幡宮 弓矢村  
古宮跡

伊奈川橋 石橋指

○岩出山観音堂

○定勝寺 孫宗 比奈西合  
本宿殿建立

左系大親孝墓

信濃

○須原宿 三丁九丁 上杉

休泊 柏屋源治郎

控宿 鞠屋左馬

左系系 去綿

溪川橋あり

△立町 建坊

ヤブ 久保屋信之丞

○小野の谷 小井村

宗良親王

山さうへつやう久きころ

白井ふらうなきの志

滑川橋

○風越山

藤原元里 名物

休所 対面屋が清

○法川寺

○とほろび

志水板石 湯舟石

善光石 柳子岩

双石 多象岩

谷石 烏帽子岩

蓮華岩 腰掛岩

屏風岩

○弁天社

○浦嶋社

辺衛家史云

谷川乃高き人多くむすりて

後々の舟を誰名つくらん

虫舟

山さうへつさあのみれ満きお

うしやまうしん 淋まき

吉田 植田 義方

寝覚仙壯巖壑間。碧

湍鳴玉白雲閑。躊躇

欲問當時跡。頼遇邨

翁株染還

とせむ

ふらうのふらうのませら

ふらうのふらう

○三飯里

氏御

かたはらききくまふまきこの地や  
重井はあそとふくろのそと

○二階廻扇宮居化

弘治年中の人世業を飲  
い本宮の山居しそむたを  
人よりいまのそむた

信次

○上ヶ松宿

福か、

二リ

泊 伊勢屋徳信

体泊 白本屋あたら

ヤ下 松崎屋久兵衛

△弥生新茶屋

ヤ下 总持屋吉助



機道音



○岩面之彫る文

此石垣慶安元戊子年

再 六月良辰成就号畢

寛保元辛酉年吉吉辰

岐阻山行 南郭

岐阻從來險。劔門。陌危

不啻近焦原。巖連。磧迫

懸空渡。峽急。灘声轉谷

昏。古木千嶂。籠日月。深

山一路。隔乾坤。最驚。威

夏雲端。雪。諸嶽中天

冷。可捫。

源頼光

中ふつしんをこまのなる  
まきららるるの柳をたそ

ととと

かひくや命と

うむそころ

今の心事をみ友

た傍の云

○陰陽石川中在

△水掛村 建徳

休所 塚本

け村ふらうと右石碑を

△谷後 津森川と  
あちとち

△高井村

水鏡山の石をたす

△中平村

浮石 鬼ヶ岡

本多川中より

○浄室 兜也より

石室又石室に親王の  
是俗文隠棲地

八沢町

わうわう曲物作あり

○木曾義康古塚

肥後守より 二重をいふ

○月太馬殿義昌

後 何と守より 五山のてら  
石室の石 細戸より  
を力とて 守より 子他  
義利 縁 縁 縁  
遂に 家 立ち

信濃

○福島宿

宮越

一里半

泊 入屋 仁右衛門

菅田 宗家 宗和

菅 田中 守平

菅 月 守平

名産物  
二刀、三刀、率、各、各、各  
も、村、の、物、と、り、り

○茅松山無縁寺

ゆき庵  
八沢口

○御嶽山乃 杉十郎

赤魚の産 魚 宗家 魚

○龍源山長福寺

隆濟宗  
ゆき庵

○御算所

信濃

輝火嶺 根井山

△新町

○天祥宮 乃侍あり

○中三柱頭 善寺 善跡

姓中京氏上回おま田圃  
とちり林申小右様一本  
こまを傳く本常義仲  
之稻松とらふたう極健

△と田村 川あり

○峠殿

わうこさう酒と飲むこと  
孫若心まうこさう時及  
と極く河と越すこと  
善仲と湯居の地をも  
えつて主人を流しきり  
そのまはらうも

○梅谷 即善光寺趾

野村代 大京川

研大谷

○駒ヶ峯

○氷精山 駒ヶ峯の  
おまなり

△小沢村 達坊

ヤ下 大和屋却介

川あり

○明星山 本名川向お

山の半途にあり

信及

宮越宿

教系  
二里

休泊 宿務屋五助

泊

徳成寺橋

長十八里

日照山徳成寺

徳成寺  
乃寺流

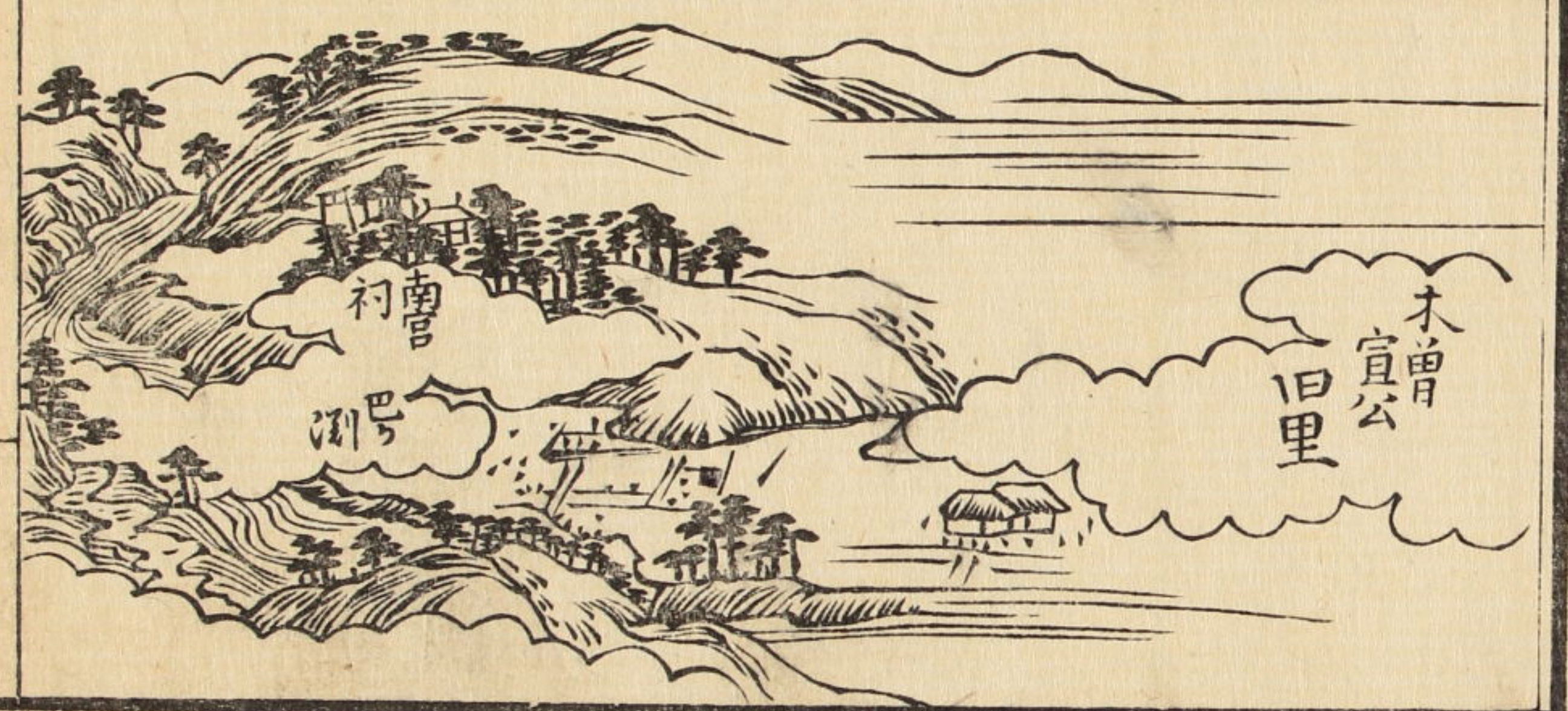
巴山吹奏あり

八揚矣

古塚山 付是橋十二里

宮原と云

○本宮宣公舊宮碑



木曾

宣公

旧里

南宮

河

木曾宣公舊里碑

木曾宣公姓源氏諱義仲

清和帝之裔左衛門大尉為義之孫而帶刀義賢之子宣公私謚也久壽中義賢為其姪義平所殺時公號駒王年僅二歲義平慮後患囑畠山重能搜殺之重能深憫駒王之凶幸密託之齊孫實成血々又轉託木曾推守兼遠々々受而乳養視遇甚厚駒王稍長傳聞源氏日衰弊

心不平遊戲常肄武技及長膂力邁倫兼善騎射兼遠更等館于柏原邸居之抱原邸即今宮越邸也治承中源賴政勸以仁王將起兵討平氏下令旨於諸州源氏公亦与焉既而賴政敗滅王亦中流矢而薨公益憤恨欲拳兵時有大夫坊覺明者初為博士後為僧住南都恒往來武及途徑木曾每主兼遠家公与論兵法大說之遂留之因与密議設計新建

八幡祠夕前鋪陳酒饌有瞻禮之者輒施之遠邇各集信上諸將聞之亦微行至者十餘人公延之館中坐定謂曰不虛諸君涉吾地也方今平氏跋扈天人俱怒向得以仁王令旨未及舉義而王薨矣其謂之何須

八幡神夢謂予曰源賴朝既起兵討平氏汝何俱不發也平氏則天囚行尸神佛不福事在必濟勿疑也予於是平建祠方欲請諸君而忽自來會是神祐也吾人欲奉兵諸君

昔見遊乎諸將驚鄂莫敢發言大夫坊覺明右持筆視左奉盟書置之諸將前瞋目曰令旨在此神鑑咫尺今日之譏不容旋踵矣座後壯士數人叩刀睨視於是諸將皆諾而盟乃命格酒且曰君等一散難可復合願留宿而譏焉諸將乃留宿定謀約結而奔既而公聚衆數千人信上之諸城起兵應之攻北國下之平軍屢來伐皆敗去既而平維盛率大軍來攻公用火牛之策大破之投崖谷死者八

千逐北連戰皆捷乘勢長  
驅入 京師平旗不戰而  
奔遂叙從四位下任征夷大  
將軍祔朝日將軍海內震讙  
焉而積歉恨至有喋血之變  
賴朝奉 上皇旨遣其弟  
範賴義經將兵伐之公与  
戰而敗死事詳史乘 公  
之長子義隆為質鎌倉為  
賴朝所殺身二子基家遠其  
外家沼田家因基家遠孫家  
郎方足利氏之始霸有功尊氏  
封家郎於木曾為列侯信洲數  
郡屬焉自是世々相傳至義

康甲州武田信玄數侵境相  
拒數歲後講和以其女為質  
信玄弄以其女妻義康子美昌  
既而義康卒而美昌立信玄亦  
卒而勝賴立時勝賴數與役  
木曾民不堪其勞美昌乃密  
与織田信長約降勝賴因遣  
使譴責其言甚傲美昌怒斬  
其使者勝賴大怒殺其質女遣  
典厩信元神保治部將兵伐木  
曾美昌發兵迎擊于垂表嶺  
大破之斬治部既而信長滅甲  
及軍于諏訪美昌乃之諏訪  
謁信長々々賞其功以安曇云

三十九  
筑摩二郡增封焉是歲信  
長為明智光秀所弑羽柴秀  
吉討光秀殺之於是義昌又  
降秀吉頃之秀吉聽諗移  
義昌封下總無幾義昌得  
疾卒其子義利之有罪國除  
神祖之討石賊也吾祖山邨良  
勝及木曾氏之支族等奉  
命啓行下木曾爾後令吾  
家世住木曾守關門今茲予  
偶遊此地想 公之勃興于此  
且痛初立大功而忘業不遂夫  
公之智勇能崛起於羈孤以  
摧大敵雪宗恥向使其不激

於忿恨內翼戴 王室外誅  
鋤暴亂則其誰與 公敵可憐  
惜哉乃刊石立碑披旧史及我  
家譜叙其略繫之以銘其辭曰  
襁褓遭厄遷岐水湄膺々  
宮原面々嶮嶮爰始爰謀  
策館于茲受以仁令載旆  
乘鉞三軍鷹揚載指北越  
火牛衝陣深谷積骨鼓  
行無敵徑詣神闕平氏破  
膽遁逃夜出  
上皇賞勲寔祚旭日威邑  
赫々一時無匹物盛必衰遂  
蒙諗疾物尤必悔遂屈



顛蹶天幸垂愍爰遺子  
姓 神灵血食夙朕無竟  
業雖不遂萬世畏敬

文化十年癸酉秋八月

後五位下伊勢守

山邨良由謹撰併書

碑額隸字

山邨良熙

石表鐫刻

臣 大服文明

石碑云

往昔木勇義仲公復守  
南宮神社御手洗也唱來  
癸辛歷久矣歎之今  
新造立石船者也

△山吹平

△越尾 達徳

体 宗宗小八

名物銘條

萩萩雪川

上吉田村

下吉田村

信只

○敷原宿 古高井 一里半

泊 川上原宿

宿 床屋宿

休 宿屋宿

名産 柳 菊

蒲 菊

○栗鷹宮

○敷原宅

苗字 古高井

又 石田

本 二十一

比 より 廿 廿

△ 石田

字 山 石

十九里

石田

石田

石田

石田

○ 石田

○ 義仲公 石の 水

○ 石田

石田

石田

石田

○法律社 寺の  
○鴉掛嶺 たけの

信及  
○奈良井宿 一里半

又楠井  
向 徳利堂  
ヤ下 檜物屋

名産 鯉 鱒

○寺田井法然痛義寺 級  
○千村法房左衛門守重 級

厚川 かき井物 寺に十石

○廣傳山大齋寺 釋宗 妙心流

○城址

○玉龍山長泉寺 曹洞宗

△平沢河 白糸細工并女物の作の 職人多し

○沼尻社

△赤下 善后寺  
岩上 休 杉村寺  
大日社あり

信州 ○贄川宿 中六、二里

泊 柏屋吉吉  
休泊 奥原何彦清

昔ハ温泉ありしと云  
名産 糸織 麻  
接骨茶

贄川 楠木沃  
流宿社

贄川 甲部家光家

○昔本宿 横波守家村  
甲部家光（甲部）贄川  
と云く氏の子と云く三尾村  
と云く政と云く三尾氏と云く子  
孫今ハ屋敷屋と云く住す

○千村在 後政家

本宿 横波守家村  
又居家重上（長子）村卿  
居伯（重上）と云く孫と云く  
と云く氏と云く十卷の孫後  
政なり 本宿 義康属して  
け村小居 後守と云く大黒村  
政ハ本宿 義忠と云く一と云く後  
少と云く自と云く又と云く色と云く合と云く色  
と云く政と云く一と云く子と云く庶人と云くと云く子  
孫 沢長と云くと云く子と云く家  
武田 佐と云く書と云くと云く  
小宮 京貞と云く又と云く状と云く抄と云く  
本宿 義忠と云く又と云く状と云く抄と云く

○楊梅山 観音寺 古く云

大同元年 田村 初守 創建  
その後 孝久 入居 千之和 二

幸郷豪千村氏再建

○常善寺 飛松山にて 昔の宗

○新園所 白床東改并 此寺の谷にあり

小川 杉あり

△廿秋堂 小本寺と云

穀米の社あり

氏居山間の教寺

又日月橋 長さ七尺

○衣雲善明神祠 彦村にて

△天振沃 休場寺の

寺は系より示本寺の仲

多くてを廻りて

さうして

掛合橋 中名橋と云

西屋の橋

長谷とある谷と  
系に本寺あり

長谷

右に記するを又谷の東に  
中へいづんの社と

△日出汐村 三つ

信長

○本山宿 三丁

休湯 長谷寺の助

○右西入りの川ありたまたま

こまも本寺の山より流るる

但し本寺の中谷にあり

○新吉首寺

小沢川を十きそを橋と

長さ十尺ありて流る

の寺ありたりて

そ人煙行々して

立新樹程を隔て隣り互  
ふ縁一帯郡西部のあたり  
皆の如き小あけす村並村  
北ですまて洗馬の跡あり  
つる

信濃

○洗馬宿 一里二十丁

泊は 花屋橋宿  
ト下 穀倉を築

○宿東 古田清水と云  
あり本宿殿馬を洗馬せ  
らるるより宿の名をせり

○東鑑云治承四年十月十  
三日木曾冠者義仲尋  
亡父義賢主之芳躡出  
信濃國入上野國仍往人

等漸和順之間為後網  
足利也雖頗民間不可成  
恐怖思之由如下知云々

○善光寺八幡通  
宿帳者下巻に記す

休

○桔梗ヶふ 合戦場

妻の武田軍記より  
みよりの里

江ノ字石伎  
とのふ乃多し千の幸とて  
村をさむきらるるつる

大門村

休 小林孫太郎  
相平友あり

○八幡神社 今八幡宮

信及

○鹽尻宿

下宿場、  
二里

泊 榎子屋秋那  
休 寺台 井原惣右衛門

○参り所あり

○大釘清水 榎原村  
長坂

△芝草屋

休 上系源次

○塩尻嶺 坂急

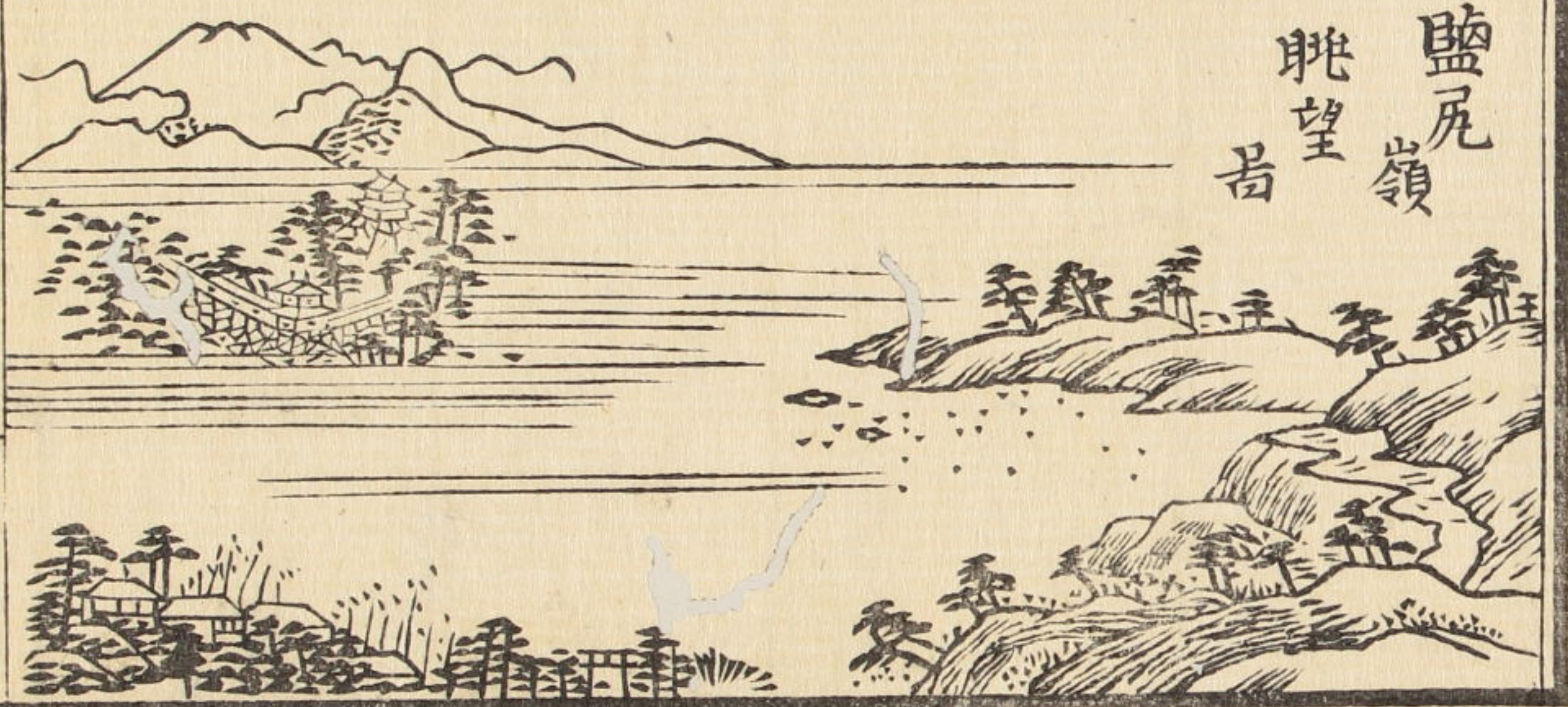
武田古立赤合戦場

○浅間河 嶺ノ台在立

大岩

富士山向合せなり

○源内湖水 宇治川



鹽尻嶺

眺望  
昔

△宮谷村

体 鴨居吉部

○宮見村より鴨居谷と云ふ所の  
たのふふの字山にけしとら  
強弱積りも又東極村板  
橋あり河筋東と云ふと云て  
戸川といふと云ふもねと  
ありて強弱春の名乃正面  
毎小南と云ふと云ふと云  
し下の強弱ふらるる族を後

○甲良御石あり

下強弱より一リ半

上強弱より三リ

高島城

合 降より二リ半

高本より二リ半

けり

教員石と云ふ所あり

名あり

甘茶ヶ原より四リ八丁

葦 雲より二重

甲府

柳所

宿 聖多利初

○御村山 神戸東

○八ヶ嶽 林を穂原井

又一説に根原東原水  
の井の在す所を保  
屋中より入

仲中形

志のわがわのすきも川原  
さしつゝささむと云ふり



高向城入口横下より  
衣裳崎

木瓜 大初ノ作氏  
ナニノミエリノミエガタツ  
シヨリシヨリ小カケノミ

○柳村山

玉糸 今利を久  
ツクオウノ横谷のあたりに不  
志リ望める杖ノミ

○風鏡丸

廿二日 源後頼  
古ノ杖ナキナリノ横谷ノミ  
風のクワリヨナキマカワシ

○上河内神社 神又も村在

又の神 徒御名を命  
大泉十年とて冬麻衣七反

廻索借守藤肉も備ふ

元中承二月丙日

例承承年申七十七分

新紫 宗良親王

あさまさのまのまけいひひん  
まふとこころのれいひひん

まふ本 元中納言後光  
天馬守日守のふんまふも  
かろまのなかとのまのれ

○泖水名産親射

信長

○下諏訪宿 和田、五里八丁

泊 丸屋聖堂所

檀宿 地蔵堂所

休 報念堂所

上河内より下すこ、  
一り半

○城

○有東より中傳へ至る無儀  
あり新橋

新橋 山菜畑

内作田 字も山

根入杖 山村山

湯谷湯子

山つりとの池のよき水物  
池より平三日の湯たけ  
中谷田のころ上後湯より  
りまののちへ接ぐあま  
なり大なるまゐるなどの  
るうらまゝ水の上にあ  
けてるやうこそ御年  
必しあまなりまゐるの  
なりまゝ湯とらふ又

神先しんせんのりくははるま  
のらんちうけはるま  
うらまゝやあま  
まゝうらまゝのまゝ上  
後湯よりまゝ  
下のすののちまゝ  
まゝうらまゝなり  
ようまゝ年のまゝ  
又山後よりまゝ  
あまひらまゝ

○諏訪春言

○諏訪社言

師 兼

千々  
らうひあまの神祇の山とせり  
くまゝのまゝ  
新橋  
まゝうらまゝ  
うらまゝのまゝ

堀川尾道 取仲

すんの御所よりいりあつた  
井乃わらへてさきこへり

壬二集 家隆

そらけり水乃くもあつこの  
すんの *Funishu* *Shenathroja*

ふりま 西り

よもあつすの *Funishu* *Shenathroja*  
つとらあつたふりまへり

下飯傍

○ 神又寺 墨谷盛え

すんのふりまあつこの  
井乃わらへてさきこへり

○ 沼連掛

○ 本落坂

○ 落合橋 氷川より

○ 和国義堂城址

△ 掘 沼 連掛

ヤ下 氷 沼

わらへてさき

意本さき

持りあり

△ 西條屋村 連掛

ヤ下 大納六番

七まあり

○ 陽子岩

○ 大黒岩

○和田宿

一名風紙筆

昔より出た又切きなり

東坂ヤナシ

△東餅屋村 達勝

ヤナシ 和泉屋志助

新石坂

長坂

親善坂

二名栗と辛と交り

とむすぶ栗あり

一ツ家

大井

新安

けしん市に名多し

九輪州 下毛花

扇尾家 金花村

つる藤家 出羽花

柳家 かくあり

かろうりきききききき

○折待所

△唐澤 達勝

ヤナシ 羽田佐右衛門

佐良

○上和田宿

長寛く

二二リ

泊 永井家

ヤナシ 和泉屋志助

休程

四九

○ 老川橋

○ 八幡宮 和義堂と云ふ

和田が原

○ 若狭八幡宮 五村

○ 大門嶺 大門村

御座るより遠くをゆく  
けむり武田と和信の  
村と云ふと古戦場なり

△ 下和田 達坊

ヤド 中川良太郎

深山寺

吉原

是より小縣郡なり

○ 依田川 大橋少橋  
十石半

南の溪へ和田山より流  
る水あり大門嶺より  
あつた水と和田川と

信員

○ 長窪宿 信員  
一里半

休泊 山崎屋

休泊 高良屋

善光寺あり

○ 新取嶺

休 中村屋

石虎坂 善光寺あり  
上後傍、七リ

五十一

不刻坂

遠く上り坂  
妙義山を過る

信及

○芦田宿

信及  
一月八丁

泊

浦留部

ヤ下

武蔵野宮

○芦田守城跡

立科嶽

信及

○望月宿

八丁  
三十二丁

体泊

内田宮

体泊

江守屋

ヤ下

巴屋

望月係

杖夜のりるあれと望月の

とまはれとさうふとさきさうり

○大伴神社

望月意江守城跡

東の山を過る

望月山城光院 福宗

望月系  
登光系

境内あり

○望月赤牧

上ノ山を過る  
そ牧の系と

於き

伊之

遠坂の宮乃信守のひんぐ

いまはひんぐんりら月のさ

新吉 定家

さかのみちの代りおとあつめ  
まことあつめを月のおと

延喜馬寮式牧

山鹿牧 豊前郡 塩原牧 同

岡屋牧 同 萩倉牧 同

宮原牧 同 殖原牧 筑前郡

大野牧 豊前郡 平井豆牧 筑前郡

笠原牧 豊前郡 高位牧 高井郡

大室牧 豊前郡 新治牧 豊前郡

猪鹿牧 佐郡 塩野牧 同上

長倉牧 日 望月牧 日

○角摩川 糸原井守が  
流るる所なる川

城はくわつたなる川

月輪とつし洞あり月の雲  
欽ともうらる二りりまを千  
世川と名なる川

橋 長さ九尺

○岩室 又岩室 大室川  
岩室あり

凡生坂 上り坂と云ふ  
と今も山頂と云

○布引山 あり

信長 増名用 七七丁

○八幡宿

休宿 大島屋前

○八幡社

流麻川 又流麻川  
其子流川

五葉集の八景麻川も  
去く

風雅 惟徳院

ちの海川よりあかすみまう  
まきらいられこひのまきま

扶桑畧記云

仁和三年七月三十日信濃國

大山頼萌山河溢流六郡城

墟拂地漂流云々

云々の伊奈沼乃新井等

依久言并ホ六郡こわら

川なり

千世川橋 ちのせ川橋名  
田ぬの合

○澁明神社 澁のちよかこ  
なまあり

信濃

○鹽名田宿 岩村田  
一リ半

泊 大坂屋のちの

ヤド ちのせ川

○物取明神社 物取村  
新田あり

昔の物取志不のといふ中

かん沙る山の麓ありる石

といふわづらの里ありるの

民の事といふのえ縁乃

まに物取あるをきふ

乃を一夜一夜かき入

るに大石畑といふ地より

物取つぎるをいふ出

しるるんことをいふ

まに花の月中の七日を



あつゝあつ

物取石品



うろここころ人あつ  
横 五尺七八寸

後の方へ長くまわると  
石のまゝも同じ色に  
釣の船へ釣こつた

○相生松

下平塚村  
あり

僅く鉄  
御産物

その音からひくおもひ多き  
男女のまじりたる世を

信長

○岩村田

小田井  
一リ七丁

泊 布衣  
休 美松や時休

宿中

○若光寺

山後  
二リ

○甲良

上名下仁田あり

○佐吉村 平がた城跡

合井系

城跡 岩屋村も  
けさなり

○光月大権現

輪結 せあり

信長

○小田井宿 追分

泊 安川倉老

ヤ下 小橋中老

小田井又を即位於城跡

○茶師老

飯盛堂 八つ嶽  
又あり

そのの系

とくは坂屋よりうりく

追分よりうり

信長

○追分宿 密掛、  
一リ二丁

泊 城後屋徳信

ヤ下 陽屋和守

北國御所

普光寺ありね十八

○沙間社 別当 志保寺

多載

藤原清通

まわつてはるのゆゑに世に

まづの結ぶくちあり

沙間寺

石碑 八石

吹石寺 吹石寺の石

拾遺 母 之

つとてう戦意中んふあつる

あまのつれさつてあま

新古 雅 然

さうふらやゆるのまきう

里とひうぬるをとのまか

○活湯社 指名村にあり

兼保大巻石

下仁田にあり

○立科神社 古石村にあり

信及 水掛宿 かつ井渡 一り

○竈石 塩沢にあり

新田村

欽村

○敵と山 平系系

泊 外 庄 清 湯

草 山 本 屋 伴 右

竹原にあり

前沢村 小坂あり

塩沢村

臺場の所あり

○竈石 塩沢にあり

新田村

欽村

○敵と山 平系系

信及 板本

○輕井沢宿 二り

泊 樞屋武助  
 控宿 赤松寺  
 諸 井田や吉原

○宿東口より行くに橋を  
 こすに石井坂といふ坂に  
 かる 碓日宿手く廿二丁

○力試ふ

○貞光靈社

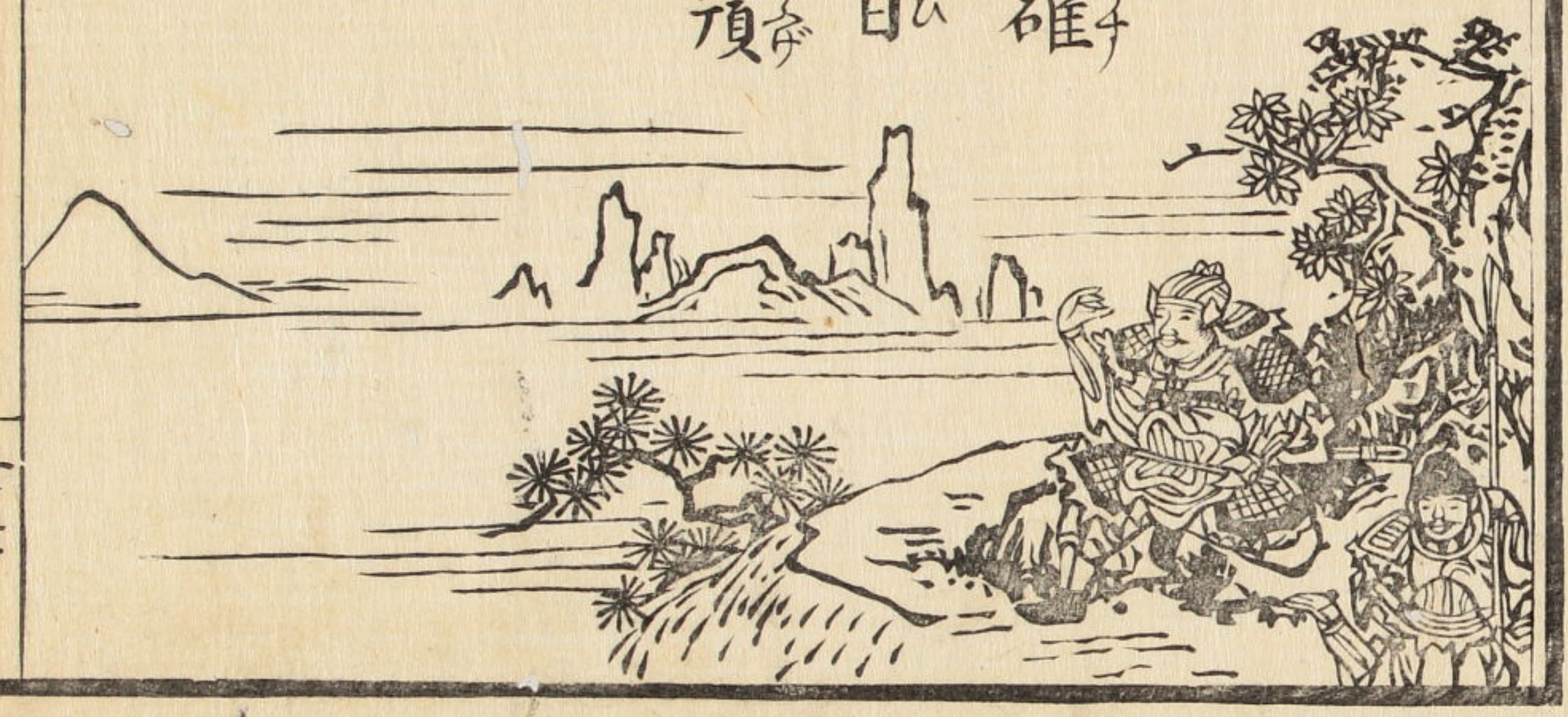
△ 佐渡 國境  
 上野

○然野宮 社あり  
 社家あまこあり  
 是よりかゝり飯

○二王堂 あり飯

○子持山 山に橋あり社あり

碓日嶺



万葉集

倭人あし

いかにやうくしひの坂さくしよふ  
いりつゝあしきくあまきあふも

○妙義山 東の方部を

武奈下線 孝徳

新波山 芝尾 根山 なる

唯日嶺文字

唯日嶺 日平紀

字頂比坂 万葉

笛吹嶺 古平記

公平吹 聖史

春井 日

臼井 東澄

唯氷 和名

今和名おと利由

日本書紀 唯日嶺より

辰己の方をこらして橋を

あひまひくや橋と

らまひ歌うま入るまの

少藤合名のかく千載の後

まぐもあふとあつまを称

中より東坂名

初坂 子持山

長坂

川

名紙 ところろ

味う懐 ぶらむら平

日名

△山中坂 建坊

休 魯や住居系

駒込坂 入石久保  
在路邊 くらり平  
谷坊坂

橋待所  
川あり

△宇新茶屋  
羽根石と云  
ヤク 小沈岩あり

清水  
とらと

いんちいんちいんちいんち  
有るくらりも入

風穴 遊込  
別名坂 三枚岩

坂茶屋より十八丁  
蔵併あり

刻より かりく  
廣子 赤土坂  
枚本坂

○谷圓  
御番所

上州  
○坂本宿 招舟園  
泊 山仁茶屋  
休 小黒茶屋

川 久保茶屋あり  
碓氷川橋あり

○換川  
御園新

上換川村

休 八金巻傳石の

小川あり

下換川村

妙義石あり

小山沃

○百合若足趾石

○射拔藪 右の山あり

△梨木村

ヤド 中巻長巻

丸山坂

桑金石

蓮花樹あり併て  
征の石あり

又科村

観音寺あり

上州

○松井田宿 二り寺

田名松枝

泊 樫屋成石

ヤド 角巻長巻

○八幡社

此より一石七日市

石あり吉井あり

○大道寺古城趾 小田寺

榛名<sup>ハシナ</sup>名<sup>ナ</sup>あり  
り<sup>リ</sup>ね<sup>ネ</sup>たり

○神明宮

連坂<sup>ツラギ</sup>と<sup>ト</sup>結<sup>ムス</sup>庄<sup>サ</sup>

良<sup>ナホ</sup>邑<sup>チ</sup>産<sup>マ</sup>

○白雲山<sup>ハクウン</sup>言<sup>コト</sup>願<sup>ガネ</sup>院<sup>イン</sup>と<sup>ト</sup>云<sup>イハ</sup>

妙<sup>タカ</sup>義<sup>ギ</sup>乃<sup>ノ</sup>あり

○波古<sup>ナガ</sup>神社<sup>ジヤ</sup> 大<sup>オホ</sup>権<sup>ケン</sup>原<sup>ハラ</sup>と<sup>ト</sup>云<sup>イハ</sup>

原<sup>ハラ</sup>市<sup>シ</sup>村<sup>ムラ</sup>内<sup>ウチ</sup>

△八<sup>ヤチ</sup>本<sup>ホン</sup>木<sup>キ</sup>

休<sup>ユイ</sup> 山<sup>ヤマ</sup>岡<sup>カ</sup>倉<sup>クラ</sup>倉<sup>クラ</sup>坊<sup>ボウ</sup>

上<sup>ウヘ</sup>亥<sup>ケ</sup>

○安中宿

板<sup>イタ</sup>ノ<sup>ノ</sup>三<sup>ミ</sup>十<sup>ジウ</sup>丁<sup>テイ</sup>

泊<sup>トキ</sup> 金<sup>カナ</sup>井<sup>イ</sup>宗<sup>ムネ</sup>助<sup>タケ</sup>

控<sup>コウ</sup>宿<sup>シュク</sup> 金<sup>カナ</sup>井<sup>イ</sup>や<sup>ヤ</sup>雲<sup>クモ</sup>乃<sup>ノ</sup>

ヤ<sup>ヤ</sup>下<sup>カ</sup> 山<sup>ヤマ</sup>岡<sup>カ</sup>文<sup>ブン</sup>公<sup>クウ</sup>即<sup>ツク</sup>

安<sup>ヤス</sup>中<sup>ナカ</sup>川<sup>カハ</sup> 雄<sup>オウ</sup>水<sup>スイ</sup>川<sup>カハ</sup>下<sup>カ</sup>流<sup>リウ</sup>

そ<sup>そ</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>そ<sup>そ</sup>流<sup>リウ</sup>

中<sup>ナカ</sup>宿<sup>シュク</sup>村<sup>ムラ</sup>

大<sup>オホ</sup>目<sup>メ</sup>御<sup>ミ</sup>乃<sup>ノ</sup>あり

○一<sup>イツ</sup>宮<sup>ミヤ</sup> 菰<sup>コモ</sup>原<sup>ハラ</sup>大<sup>オホ</sup>明<sup>メイ</sup>神<sup>カミ</sup>と<sup>ト</sup>云<sup>イハ</sup>

板<sup>イタ</sup>鼻<sup>ハナ</sup>川<sup>カハ</sup> 雄<sup>オウ</sup>水<sup>スイ</sup>川<sup>カハ</sup>下<sup>カ</sup>流<sup>リウ</sup>

板<sup>イタ</sup>乃<sup>ノ</sup>あり<sup>り</sup>そ<sup>そ</sup>流<sup>リウ</sup>

上<sup>ウヘ</sup>亥<sup>ケ</sup>

○板鼻宿

三<sup>ミ</sup>十<sup>ジウ</sup>丁<sup>テイ</sup>

泊<sup>トキ</sup> 須<sup>ス</sup>賀<sup>カ</sup>乃<sup>ノ</sup>流<sup>リウ</sup>

ヤ<sup>ヤ</sup>下<sup>カ</sup> 壽<sup>ス</sup>乃<sup>ノ</sup>流<sup>リウ</sup>



○雁子巢山

今奥雁島

指前社あり

八幡村

八幡宮

○美濃八幡宮 美濃村

高崎川 鳥川

源六橋 名山より流す

物々々々々々

幾坊

上州

○高崎宿 一里九丁

舎あり

泊 榮屋林亭

本町

日 高崎宿 七

休 田町 高崎宿 兵助

名産 絹 絹織り

白月竹 三鞭 用也

城

△三國御所あり

△福崎伊勢守屋あり

○膳沃村 三徳也

△佐井 伝乃

舟 船 舟 薄池あり

船本 観音 牛子池 跡

小坂山 橋本

○佐野 寺 宿

吹屋村 あり

倉桑

源仲經

すみ細くの中川流るるを  
かろまうとるの相うらり

木本

島家

くつらり甲のまへとめうけ  
まへにまへまへまへまへ

蒲生元

氏郷

ままこの依のまへまへまへ  
まへまへまへまへまへ

○定家社

按すり依の村  
まへまへまへまへ

他なる  
つさり

○佐丹源兵衛恒世河濱

○長者屋鋪趾

滋谷村  
西光寺側

宮ヶ崎村

根吉屋村

○金井治守守墓趾

山名村

○八幡宮

○社壇よりうらまへあむる  
馬を任人念流とらるる

御者初念の半あり  
まへまへまへまへまへ

まへまへまへまへまへ  
まへまへまへまへまへ

まへまへまへまへまへ  
まへまへまへまへまへ

上及

○倉賀野宿 新河く 一里半

泊 次賀長吉郎

マ下 辺江屋五右衛門

○高井 山名八幡宮

○日光例幣使所 下巻ニある事

○鹿橋乃あり

榛名山 赤城山 あつぎ

△岩鼻村 立地

碓氷川 烏川 ちり谷 湯川

立石新田

○今更雅社

川 日中谷 平井谷 あつぎ 物 羊魚川末なり

○かむ橋乃社

上頁

○新町宿 車店 二丁目

泊 岩玉屋金成 中村屋作系 休 柳屋源平良

今横明神祠 きんざん あり

上野 國境 武系

○新流川 ちり谷

水止ハニニ新流川より 出ルガハナク

後瀬村

三つ石あり

鬼石村

△石神村 ちり谷

ヤ草 湯屋菊池良

○越後三石常三石

○赤城山三石

△小幡石あり

○令積社 土俗多き  
ト保る

武具

○本庄宿 深谷  
二ツ花丁

ト平廣本公又全清

明神あり

休 小虫屋利八

△赤楊石 たひのち  
某翁後裔

川 石とくま

甚町

たよりなき  
水のち

一本木村

武具戸根川

ちり刀根川と書く

つらつら川境上良

武具

ホウジ  
俵尔堂村

△牧西村 建坊

小山川 休 慶長店松

△岡村 建坊

マ下 柳登利石

石原

○白田山墳

○岡部忠隆四郎

晋濟寺 忠澄墳

宗徳  
なまごころ入る家の森古くふ  
あきのまゝこれおきそく

園地  
安部彦陸庵あり

武及

○深谷宿 無谷、 二丁目

泊 坂屋敷  
ヤド 善面御所

○観音堂

善面坊の碑あり

死なむとてまつてまゐりや  
とくし 乃らね

○けねとより板屋あり

東房村

名物どじょう汁

○たふ標ふあり

中瀬作持所 飯橋  
沼田石木

△糸系村 達坊

休 上道登原  
休 伝系

△上石系村 石系

○秋女石 石系  
十石

△下石系村

休 杉村文之郎

○松山川越々

無谷 前所

小代所

○稲花社

○蓮生山慈谷寺

自稱

淨土の刹のとおやゆき  
こふちうく  
うららきせぬ

武蔵

○熊谷宿 四リ八丁

泊 布能田助右衛門

ト下 松板やきん

休 和泉や治右衛門

惣のり

惣のり

○赤塚社

○高木大明神

戸田八丁村

東行院東行寺

徑宗

直実古城蹟

東鑑云

治承六年六月五日甲辰熊

谷二郎直実者匪<sup>ス</sup>勵<sup>カ</sup>朝夕

恪勤之忠去治承四年追討

依竹冠者之時殊施勲功依

令感其武勇給武藏國舊

領等停止直光之押領可<sup>レ</sup>

領掌之由被仰下而直實

此間在國今日令參上賜件

下文云々 又云

下 武藏國大里郡熊谷

次即平直實所定補所  
領事

右件所且先祖相傳也而久  
下權守直光押領事傳止  
以直實為地頭之職成畢  
其故何者佐汰毛即當陸  
國與郡花園山楯籠自  
鎌倉令責御時其日御合  
戰直實勝萬人最懸一  
陣懸壞一人當千頭高名  
其勸賞件態谷鄉地頭  
職成畢子々孫々永代不河  
省他妨故下百姓等直承知  
敢不可違矢

治承六年五月晦日

久下村 建場

休 中嶋屋敷

○久下權守直光石所

是より荒川土子色  
○赤塚

吹上村 建場

休 漆屋又藤門

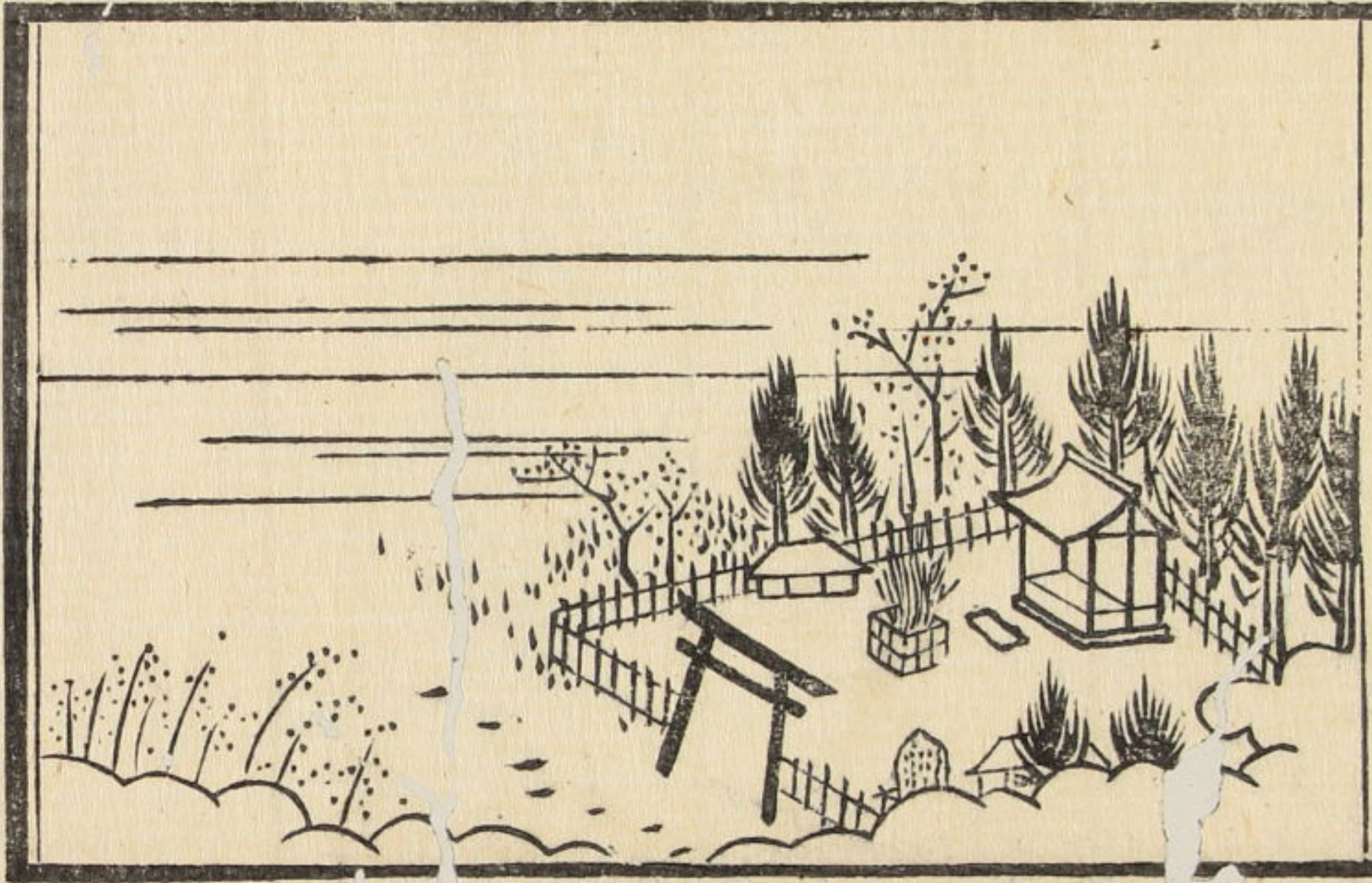
ヤク 福田屋敷  
是より左子赤石田  
館林是利別區

△宇田村 建場

休 弟屋敷

○沼方社 ○親方寺

八幡宮  
 箕田源次流出生  
 社内碑あり



銘曰

武蔵州足立郡箕田邑田間  
 有少行義名為射貫相傳  
 昌平之際源公經基於鎮  
 在於此邑公嘗歸崇三宝  
 欲營無量壽堂因卜其地乃執  
 弓跨馬出于城外北面發弓驗  
 其所墜而建焉今觀於此叢  
 橫有畫密若束箭苞茂不增  
 持瘁不減使人驚異蓋公  
 也允文允武補音上下始受源姓  
 拜大將軍不帝專美往古後裔  
 氏族緝熙相續人民服歸焉其  
 威神照明君蒿以赫厥靈哉



未戒前羽伐而民畏敬也傳云觀於御而知王道之易也如其巧績布在方策吾俯何言後奉源任為箕田令社也勇智干城公侯其子綱也亦超々武夫雁目揚攫如魚如翼口碑永世傳云深山大沢出龍蛇夫箕田者勇武之所蟠可謂武藏之出庫也今茲已卯之秋余遊于此佐藤加藤島村閔根及邑長等相議欲碑此龍之元由而施于不朽就請于余余曰人傑地靈鍾秀焉世也亦類而已畧識其事銘曰惟此叢竹雨露養育声名馥

郁。嗚呼神在更見遺愛永傳千歲

室曆九年己卯九月

前龍淵持月老初撰

東都龍舟山維碩書

右亭起元紀歲次辛酉仲春吉綱右故加瀨龍山而時詔美人再鑄

八幡宮別當 真言宗

龍昌院

甘音提寺 禪宗曹洞宗

寶持寺

綱君法号

萬壽元年甲子三月五日

美源院殿大相莫綱大禪門

林大樹 後世後物とつたてりていつふ世とつたてりて

武只  
○鴻巣宿 桶川

泊 穀屋治三郎  
洲山庄在り

ヤ下 繪多屋重翁

○高城明神社

○勝願寺 浄土宗

宿在り

○鉾林 日光在り

帝屋新田

△赤村 建陽

休

武只  
○桶川宿 上尾、一リ

泊 栗系持力  
村田家三郎  
休 柏や庵在り

浄会寺 浄土宗

○馬頭観音 小室河原  
与由寺と号す

○雷電山林 中座村  
雷電宮あり

武只

○上尾宿 大倉、二リ八丁

泊 友光清盛

ヤ下 増田屋仙翁

休

右方 川越  
左方 岩槻

日光道

○浅間祠。加茂社加茂村

△天祥橋遠坊

休 福徳や百舌

ヤ下 島屋金次

○大夏氷川行三十一

其及 浦和

○大宮宿 一リ十七丁

泊 山崎在左

ト下 清水平太

ト下 柳田久

休 柳や左

○東光寺 孫

○武蔵國一言

氷川社 社数三

多居三十八丁

寺通名あり

大宮系 二十丁

中和立坊

多居あり

○まご六國のなとり甲斐

為能上井日光も士

海男上只伊勢保木の

山々解も白る田々

○大宮宿の村あり

よりとりの村あり

る土の村あり

武及

○浦和宿 一リ半

泊 松葉宿あり

ヤ下 山口清之宿

ヤ下 松や小之宿

○綱津社

○月讀宮 南岸村と云

此と云世に夜祠と稱す

○橋本神社

浦和坂 旧名

此村を辛申燒屋と云  
名おなりふく燒屋坂と  
云

○熊野社

武具

○葎宿 板橋 二リ八丁

泊 板原三浦

ヤド 葎宿七

元歎

此郷をさくさくといふ  
聖原と云て戸田村と云  
る川郷より安の郷也  
信らるる

堤村

此村をさくさくといふ  
川也水かさば堤を築  
り廻り多しと云  
古に此つと村をさく  
あつと云ふも水かさ  
戸田と云つとす堤村  
はくさく

戸田村建地

休 板原三浦

戸田川 船

舟賃 六文

水より下流又より流るる川  
と云ふ又入る川もあらざる  
下流戸田川と名づくも  
より川下と云ふ川は  
まよふ川は川田川と云ふ  
川中東上里出鎮

長池 鴨多く  
うす

志村 坂あり

大根 狩名あり

清水 茶師あり

石流 香あり

小豆沢村

八平 行あり

太子王子名

○高吉橋 神社あり

縁と板木あり

武具

日本橋

○板橋宿 二リ

休泊 伊勢や徳吉  
平吉

休 小松や源吉

川越 八里

煉馬口 一里

平尾

○平塚明神社 板橋宿  
尾巳方

冬少林 八幡吉印 義家

加茂成治郎 義深 新井

三郎 義光 二と云ふ

まのつゝこ社とす

○澄塚 本社とす  
養家澄を仰

塚あり

○王子社 王子村あり

別当 東光院

今輪寺とす

多神 無母の御

流の川

唐中塚

雜司谷雑司谷護国寺

心谷あり

△築鴨河 堤坊

茶店あり

○六地藏堂

傾城を深

○一乃菴 小京町あり

法衣上人遷化の地

竹所

釣心

行町

小名川追分

○白山権現

王子あり

○湯島天満宮

○妻と急務所

○聖堂

○神田大明神

本郷 六丁

神田前邊

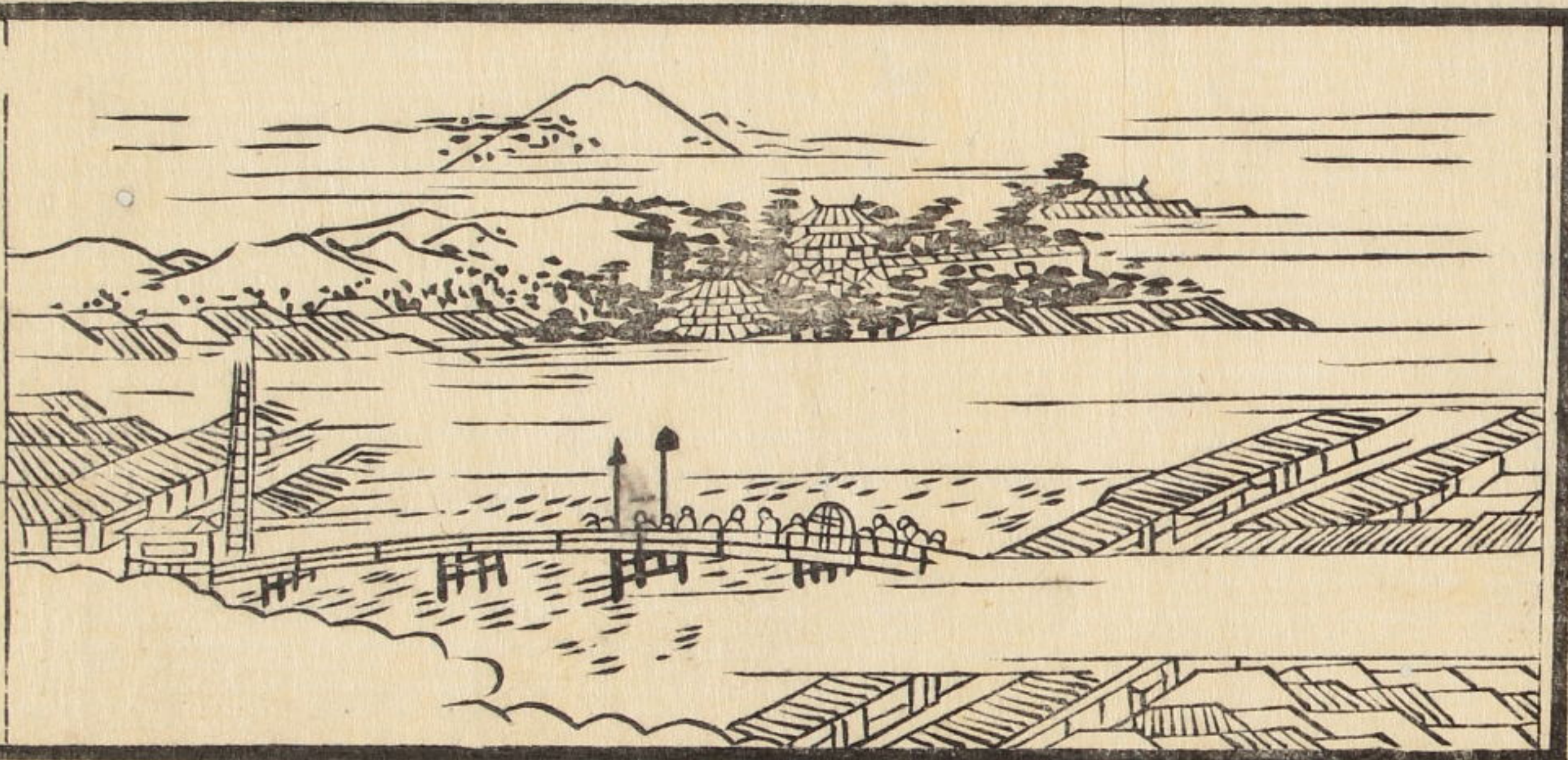
御門

昌平橋

今川橋

室町

○日本橋



二五子

小綱目  
卷一百一十五

38-805



